

日本初の国立自然史博物館を沖縄に！



「自然史」「自然史博物館」とは？

「自然史」とは、生物や海、山、土、岩など、私たちを取り囲むさまざまなものとその歴史のことで、「自然史博物館」には、『自然史標本の収集・整理・保管』『自然史標本に基づく自然史科学の研究』『研究成果を活用した展示・教育普及』の役割があります。



なぜ沖縄に？

沖縄県は、次の4つの理由により自然史博物館の設置に最適な場所であるとされています。

- ① 世界自然遺産に登録された生物多様性豊かな地域
- ② 東・東南アジアや国内外主要都市へのアクセス、研究拠点ネットワーク形成の優位性
- ③ 本土から離れ、災害時バックアップ機能としての優位性
- ④ 多くの観光客が訪れ集客する環境が整っているため、情報発信拠点としての優位性

国立自然史博物館が県に設置されることで、『自然環境の保全』『子どもたちの学力向上』『沖縄観光の魅力向上』『県経済への波及効果』などが期待されます。

日本初の国立自然史博物館の設立誘致に、ご理解いただきますようお願いいたします。

県ホームページ



特設サイト



インスタグラム



問い合わせ

自然保護課

電話：098-866-2243

10月は「がん検診受診率向上に向けた集中キャンペーン月間」

日本人の2人に1人が「がん」になると言われており、沖縄県では、年間8千人以上の方が「がん」になり、3千人以上の方が亡くなっています。しかし、がん検診を定期的に受けることで、「がん」による死亡を減らすことができます。

自分のため 家族のため いちゅんどー！がん検診

がん検診は、無症状で一見健康そうに見える人が対象で、検診（がん疑いの選別）、精密検査を経て、最終的に「がん」がある/ないを診断します。がんを無症状（または小さい）のうちに早期発見・早期治療するため、いちゅんどー！がん検診。

各市町村
がん検診窓口



沖縄県がん検診
精密検査
協力医療機関



動画（アニメ）
がんじゅう
ちゃんねる



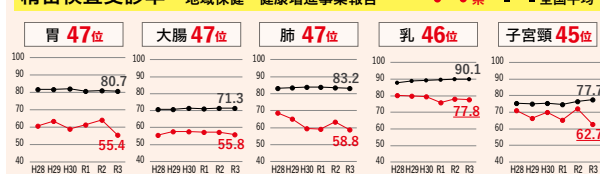
沖縄県の受診率は？

全国と比べるととても低く、特に精密検査の受診率が低くなっています。（詳しくは右の二次元コードをご覧ください。）
早期に発見し適切な治療を受けることで、多くのがんが治ると言われています。がん検診は必ず精密検査まで受けましょう。

毎年10月はピンクリボン月間

毎年10月は世界規模で乳がん検診の早期受診を呼びかけられています。乳がんの早期発見・早期治療のチャンスを逃さず、精密検査も必ず受けましょう。

精密検査受診率 地域保健・健康増進事業報告



詳しくは
コチラ



沖縄県は
がん検診受診率 **60%**、
精密検査受診率 **90%**を
目標にしています



問い合わせ

健康長寿課

電話：098-866-2209